

式年大祭を迎えて



宮司 黒田 忠雄

平成十七年酉年式年大祭を迎えて、皇室の弥栄と国家の安寧をお祈りし、御嶽講中、崇敬者皆様方の更なるご発展とご活躍を心からお祈り申し上げます。



奉賛会長 石川 要三

酉年式年大祭おめでとうございませう。此の祭はご承知の通り、十二年に一度の大祭で、

式年大祭を奉祝して、平成十三年から順次進めて参りました境内整備記念事業につきましては、石川奉賛会長を始め、ご講中、篤志者皆様方からのご支援、ご協力を得て計画どおり進捗致しまして、三月十三日に記念事業竣工奉告祭を執り行う運びとなりました。

これも偏に御嶽大神の御恩頼と二万数千件に及ぶ方々のご奉賛、工事関係者のご努力の賜と深く感謝申し上げます。

一二〇〇年前の蔵王権現像の御姿を拝観出来るのです。

二十一世紀は環境の世紀と言われる様に、昨今日本のみならず、世界中に想像を絶する自然破壊現象が、地震や津波の形で起り、一〇〇万近い貴い人命を奪い去っております。

若しこのまま文明が進展し、人間が贅沢三昧を続けてゆく

この事業を進める中で、昭和十八年大東亜戦争完遂を祈念して立て替えられた大鳥居の立替工事を施工致しました。鳥居の材料については、ご神木を当てることとし、樹齢四百五十年から五百年に及ぶ檜四本を伐採してこれにあて、材木の搬出搬入等にはヘリコプターを使用しました。神社境内への門口として、木の肌も美しい姿で聳え立ちました。

また、弊拜殿・隨身門屋根銅板葺替え、放水銃の設置な

らば、地球の温暖化は急激に進み、人間が住むに耐えられない高温気象が続いたり、また逆に零下何度というもの

すごい極寒気象が生じて来る。その結果、一番恐ろしいことは、地球上の水が枯渇して農作物が出来なくなる事です。人間は頭で解っていても体では感じないのです。ですから、これから一番必要な事は、

どの懸案事項も解決され、清々しい気持ちで式年大祭を迎えることが出来ました。神職、関係者一同、この式年大祭を原点として、一心となって御嶽大神の大御稜威を一層輝かしめ給うように努める所存であります。

三月二十五日から三十一日まで講中招待祭。併行して、五月三十一日まで式年大祭毎日祭が斎行されますので、皆様お誘い合わせて春の御嶽詣でお出かけください。

自然を大切に、物質文明のみに溺れず、神、仏を信じて生きてゆくことでは無いでしょうか。そう言う意味からして、永い歴史を持ち、関八州の農業の神様である武蔵御嶽神社を崇敬する事は大変意義ある事だと思えます。奉賛会長として皆様方の今後の一層の御協力を衷心からお願い申し上げます。

武蔵御嶽神社

参詣の歴史と魅力

日本風俗史学会 会員
青梅市文化財保護審議会 委員

齋藤 慎一

武蔵野から望む秀麗な御嶽山は、国魂の天降り坐す神南備の御山です。また南から光明山（熊野権現）と大嶽・御嶽を連ねると、大和・紀伊の熊野・大峰・吉野の大峰駈の三聖地にそっくりで、わが御嶽連峰にも三山駈という修行の行程がありました。

悠久一千余年の太古に祭祀された御嶽山は、鎌倉時代までには多くの神宝が寄せられ、女人禁制もない、ひらかれた聖山になっていました。それは壬生氏女の造宮・春秋の祭祀奉仕、徳治二年（一二〇七）の鐘寄進、尼正心や入間郡の清原氏女の経典修理の記録が語っています。南北朝時代には社僧世尊寺歴代住職が膨大

な経典―普濟寺版経―刊行という文化事業を敢行、経典の勉強に高僧令山俊翁も登山滞在しています。大方広華嚴経巻五には刊行資金寄附者に「金峯（御嶽）参詣衆四千二百六十六人と記録し、また南御坂の参詣路の村々の名もみえて、出版という文化事業に参詣の盛行がうかがえます。

近世、徳川家康は関東入国の翌年天正一九年、自署の判物で三十石寄進、幕府も二度社殿造営を行いました。幕藩体制の権力の中枢、江戸の後背地山の根鎮護の神となったのです。明暦二年（一六五〇）文書には山と坂本に御師六十坊とあり、参詣ますます盛んでした。殊に山の周囲に幕府による八王子・五日市・青梅・飯能など市町と宿駅の要衝や連結する街道の整備があったことは参詣には好都合で、甲、



式年祭行事案内

- 春季大祭 三月八日
 - 竣工奉告祭 三月十三日
 - 式年毎日祭（参拝有料）
 - 三月二十五日～五月三十一日
 - 午前七時～十一時 執行 土・日・祝は十二時も執行
 - 四月一日～六月三十日（宝物殿奉納剣道大会） 四月二十九日
 - 日の出祭 五月七日～八日
 - 七日 午後七時三十分宮出し
 - 八日 午前十時御岳平出発
 - 夜神楽（神楽殿・無料）午後八時開演
 - 四月十七日 四月二十四日
 - 五月十五日 五月二十二日
 - 薪能（長尾平特設会場・有料）
 - 喜多流能楽師
 - 五月二十九日
 - 午後七時三十分開演
- 新能賛助者芳名（敬称略）
- 福生市 柳村尾組 村尾光也
 - 青梅市 三晴産業 吉原暢近
 - 江戸川区 本洋エンジニアリング 藤森廣美
 - 新宿区 大成建設 田行啓一
 - 江東区 日本機設 清水将人
 - 港区 朝日工業 長谷 浩
 - 中央区 星和工業 大村 要
 - 大分県 菅原工業 滝田道行
 - 青梅市 丸広建設 飯田孝雄
 - 調布市 金井孝雄